



Hall of Fame 1959-2020

野球殿堂は、日本野球の発展に大きな貢献をした方々の功績を永久に讃え、顕彰するために1959年に創設されました。2020年までに殿堂入りされた方々は207人です。

2020年 野球殿堂入りされた方々

<p>田淵 幸一 1946年 東京都出身</p> <p>法大で、東京六大学記録(当時の)通算22本塁打を打ち、1968年ドラフト1位で阪神入団。69年には、主に捕手として22本塁打を打ち、75年には、4本塁打を打ち、79年に西武に移籍し、DHで82年、83年のリーグ優勝、日本一に貢献。通算474本塁打。</p>	<p>前田 祐吉 1930年 高知県出身</p> <p>1960年、大阪監督に就任し、その年秋に「早慶六連戦」を指揮。82年に再度監督に就任。85年秋にはリーグ戦10勝無敗での優勝を飾る。97年からは、ソフトボール監督を務め、長年、ソフトボールの発展や選手育成に尽力し、2007年に「日本ソフトボール殿堂」に顕彰される。</p>	<p>石井 連蔵 1932年 茨城県出身</p> <p>1958年早大監督に就任。60年秋には「早慶六連戦」を制し、逆転優勝を飾る。72年、朝日新聞社時代に、日本大学野球選手会の大義に立ち、85年に「早大監督に復帰」。90年から15年までの間、日本学生野球協会等の要職を務め、アマチュア野球の発展に尽力した。</p>
---	---	---

<p>1959年</p> <p>正力松太郎 日本野球を成功させた巨人を創設 阿部 貞 戦国初のプロ野球選手会を創設 青井 隆雄 学生野球の父 藤井 信 都市対抗野球大会を創設 藤田 忠雄 初のプロチーム日本運動協会を創設 久慈 誠二 大正野球大会の選手 沢村 栄吉 初期プロ野球界不滅の大投手 小杉 三郎 大リーグ初の勝利投手</p>	<p>1972年</p> <p>石本 秀一 広島カーブ創設監督 中野 武行 神々の伝説と伝説を確立 木田 茂 運動記者の草分け</p> <p>1973年</p> <p>内海 弘哉 明大野球部長 天野 貞祐 延打の初代スター選手 広瀬 隆三 スポーティ記録の第一人者</p>	<p>1974年</p> <p>藤本 定義 29年で5球団を指揮した名監督 藤村 富雄 延打の初代スター選手 野田 誠三 甲子園球場設計工事責任者</p> <p>1976年</p> <p>中上 英徳 プロ野球完全試合達成者 小泉 信三 学生団体行早期戦線突破</p>	<p>1977年</p> <p>水原 茂 巨人第2期黄金時代の名監督 西沢 隆夫 14歳でプロ入り、投打に活躍 西沢 隆夫 巨人第2期黄金時代の名監督 西沢 隆夫 14歳でプロ入り、投打に活躍 西沢 隆夫 巨人第2期黄金時代の名監督</p>	<p>1978年</p> <p>松本謙治郎 初代タイガース主将、延打で対決 須崎 武 48歳で投げた小さな巨人選手 伊丹 安広 甲大の強制的な投手 西沢 隆夫 巨人第2期黄金時代の強打者 岡田 三郎 金全ポジションを守った巨人選手</p>	<p>1979年</p> <p>別所 敏彦 310勝をあげた南海、巨人のエース 平沼 亮三 東京六大学野球連盟第2代会長 谷口 五郎 大正時代の早大エース</p>	<p>1980年</p> <p>大下 弘 「青バツ」の天才打者 小嶋 誠 シーズン51本の本塁打王 千葉 茂 「猛牛」といわれた巨人エース二塁手</p>	<p>1981年</p> <p>藤田 徳治 124試合連続出場 岩本 敏行 第2期黄金時代の巨人エース 佐々木 謙三 学生野球審判制定に貢献 小川正太郎 学生野球協会結成に貢献</p>	<p>1982年</p> <p>鈴木 龍二 センセ長年務め、球界の発展に尽力 内岡 四郎 学生野球審判制定に貢献</p> <p>1983年</p> <p>三原 清 「魔術師」と称された名監督 内村 祐之 第3代コミッショナー</p>	<p>1984年</p> <p>杉下 茂 フォークボールの大投手 白石 勝巳 巨人初代投手の大投手 荒巻 淳 「火の玉投手」と呼ばれたリーグ初代新人王 山中 勝雄 甲大で首位打者3度のスラッガー 山内以九士 野球規則・記録の研究、整備に貢献</p>	<p>1986年</p> <p>中西 太 「猛牛」と呼ばれた本塁打王 広瀬 隆三 名投手で監督 吉澤 竹雄 投手の黄金時代を築いた監督 近藤 隆夫 投手の黄金時代を築いた監督 吉岡 一郎 第9代コミッショナー</p>	<p>1989年</p> <p>島 秀之助 初代セリーグ審判部長 野口 死也 戦国初の三塁手 野口 死也 戦国初の三塁手 野口 死也 戦国初の三塁手 野口 死也 戦国初の三塁手</p>	<p>1990年</p> <p>真田 重雄 ノーヒット・ノーラン2度達成 塚本 隆夫 ノーヒット・ノーラン2度達成 佐伯 清 ノーヒット・ノーラン2度達成</p>	<p>1991年</p> <p>牧野 茂 高知チームを確立 高橋 清 審判員の300試合出場第一号 高橋 清 審判員の300試合出場第一号 高橋 清 審判員の300試合出場第一号</p>	<p>1992年</p> <p>山内 一弘 大毎ミサイル打線の中心投手 鈴木 啓示 近鉄一筋、歴代4位の317勝 福本 豊 攻守三拍子揃った強打者 山田 正明 15年連続2盗塁達成した名監督 中沢 不徳 大リーグ初代専任監督 生原 昭宏 日本野球史上初の後援者 F. 正岡 子規 野球を愛した明治の詩人、歌人</p>	<p>1993年</p> <p>上田 利治 熱血指導で阪急を常勝チームに 高橋 清 投手としてオールスター出場 松田 謙平 大リーグを相手に球界改革を推進 H. 山内 正明 明治5年野球を伝えた「日本野球のルーツ」 鈴木 啓示 軟式ボールを考案した野球の普及に尽力</p>	<p>1994年</p> <p>伊藤 勲 熱血指導で阪急を常勝チームに 高橋 清 投手としてオールスター出場 松田 謙平 大リーグを相手に球界改革を推進 H. 山内 正明 明治5年野球を伝えた「日本野球のルーツ」 鈴木 啓示 軟式ボールを考案した野球の普及に尽力</p>	<p>1995年</p> <p>村田 亮治 激戦で「サカ」投法で大活躍 山田 正明 日本一3連覇を達成した名監督 志村 正樹 野球人気を創出した名投手</p>	<p>1996年</p> <p>山本 浩二 「ミスターヘル」と呼ばれた巨人の4番打者 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督</p>	<p>1997年</p> <p>大杉 勝男 両リーグで1000試合、1000安打達成 山本 浩二 両リーグの球界と投法 中尾 碩志 速球派から技巧派へ、通算209勝 井口 次次夫 和道山中、甲大の先投手</p>	<p>1998年</p> <p>王 貞治 一本足打法の世界のホームラン王 石井 連蔵 アマチュア球界の王者が全日本監督へ 佐々木 謙三 ハワイの日系2世、三拍子揃った名外野手 廣岡 知男 野球のオリンピック参加に貢献</p>	<p>1999年</p> <p>杉浦 忠 日本シリーズ全4球季の南海エース 石井 連蔵 アマチュア球界の王者が全日本監督へ 佐々木 謙三 ハワイの日系2世、三拍子揃った名外野手 廣岡 知男 野球のオリンピック参加に貢献</p>	<p>2000年</p> <p>福島 敏夫 歴代最多の949盗塁、歴代4位の350勝 米田 哲也 バリーゲームを2度奪った 歴代最多の949盗塁、歴代4位の350勝 米田 哲也 バリーゲームを2度奪った</p>	<p>2001年</p> <p>福本 豊 西武黄金時代の基礎を築く 山田 正明 振替の形勢で現代プロ野球の 長谷川 良平 日本大学野球界に尽力 島本 浩二 日本大学野球界に尽力</p>	<p>2002年</p> <p>山内 一弘 大毎ミサイル打線の中心投手 鈴木 啓示 近鉄一筋、歴代4位の317勝 福本 豊 攻守三拍子揃った強打者 山田 正明 15年連続2盗塁達成した名監督 中沢 不徳 大リーグ初代専任監督 生原 昭宏 日本野球史上初の後援者 F. 正岡 子規 野球を愛した明治の詩人、歌人</p>	<p>2003年</p> <p>上田 利治 熱血指導で阪急を常勝チームに 高橋 清 投手としてオールスター出場 松田 謙平 大リーグを相手に球界改革を推進 H. 山内 正明 明治5年野球を伝えた「日本野球のルーツ」 鈴木 啓示 軟式ボールを考案した野球の普及に尽力</p>	<p>2004年</p> <p>伊藤 勲 熱血指導で阪急を常勝チームに 高橋 清 投手としてオールスター出場 松田 謙平 大リーグを相手に球界改革を推進 H. 山内 正明 明治5年野球を伝えた「日本野球のルーツ」 鈴木 啓示 軟式ボールを考案した野球の普及に尽力</p>	<p>2005年</p> <p>村田 亮治 激戦で「サカ」投法で大活躍 山田 正明 日本一3連覇を達成した名監督 志村 正樹 野球人気を創出した名投手</p>	<p>2006年</p> <p>山本 浩二 「ミスターヘル」と呼ばれた巨人の4番打者 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督</p>	<p>2007年</p> <p>大杉 勝男 両リーグで1000試合、1000安打達成 山本 浩二 両リーグの球界と投法 中尾 碩志 速球派から技巧派へ、通算209勝 井口 次次夫 和道山中、甲大の先投手</p>	<p>2008年</p> <p>王 貞治 一本足打法の世界のホームラン王 石井 連蔵 アマチュア球界の王者が全日本監督へ 佐々木 謙三 ハワイの日系2世、三拍子揃った名外野手 廣岡 知男 野球のオリンピック参加に貢献</p>	<p>2009年</p> <p>福本 豊 西武黄金時代の基礎を築く 山田 正明 振替の形勢で現代プロ野球の 長谷川 良平 日本大学野球界に尽力 島本 浩二 日本大学野球界に尽力</p>	<p>2010年</p> <p>山内 一弘 大毎ミサイル打線の中心投手 鈴木 啓示 近鉄一筋、歴代4位の317勝 福本 豊 攻守三拍子揃った強打者 山田 正明 15年連続2盗塁達成した名監督 中沢 不徳 大リーグ初代専任監督 生原 昭宏 日本野球史上初の後援者 F. 正岡 子規 野球を愛した明治の詩人、歌人</p>	<p>2011年</p> <p>上田 利治 熱血指導で阪急を常勝チームに 高橋 清 投手としてオールスター出場 松田 謙平 大リーグを相手に球界改革を推進 H. 山内 正明 明治5年野球を伝えた「日本野球のルーツ」 鈴木 啓示 軟式ボールを考案した野球の普及に尽力</p>	<p>2012年</p> <p>伊藤 勲 熱血指導で阪急を常勝チームに 高橋 清 投手としてオールスター出場 松田 謙平 大リーグを相手に球界改革を推進 H. 山内 正明 明治5年野球を伝えた「日本野球のルーツ」 鈴木 啓示 軟式ボールを考案した野球の普及に尽力</p>	<p>2013年</p> <p>村田 亮治 激戦で「サカ」投法で大活躍 山田 正明 日本一3連覇を達成した名監督 志村 正樹 野球人気を創出した名投手</p>	<p>2014年</p> <p>山本 浩二 「ミスターヘル」と呼ばれた巨人の4番打者 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督 堀内 恒夫 日本一3連覇を達成した名監督</p>	<p>2015年</p> <p>大杉 勝男 両リーグで1000試合、1000安打達成 山本 浩二 両リーグの球界と投法 中尾 碩志 速球派から技巧派へ、通算209勝 井口 次次夫 和道山中、甲大の先投手</p>	<p>2016年</p> <p>王 貞治 一本足打法の世界のホームラン王 石井 連蔵 アマチュア球界の王者が全日本監督へ 佐々木 謙三 ハワイの日系2世、三拍子揃った名外野手 廣岡 知男 野球のオリンピック参加に貢献</p>	<p>2017年</p> <p>杉浦 忠 日本シリーズ全4球季の南海エース 石井 連蔵 アマチュア球界の王者が全日本監督へ 佐々木 謙三 ハワイの日系2世、三拍子揃った名外野手 廣岡 知男 野球のオリンピック参加に貢献</p>	<p>2018年</p> <p>福本 豊 西武黄金時代の基礎を築く 山田 正明 振替の形勢で現代プロ野球の 長谷川 良平 日本大学野球界に尽力 島本 浩二 日本大学野球界に尽力</p>	<p>2019年</p> <p>山内 一弘 大毎ミサイル打線の中心投手 鈴木 啓示 近鉄一筋、歴代4位の317勝 福本 豊 攻守三拍子揃った強打者 山田 正明 15年連続2盗塁達成した名監督 中沢 不徳 大リーグ初代専任監督 生原 昭宏 日本野球史上初の後援者 F. 正岡 子規 野球を愛した明治の詩人、歌人</p>	<p>2020年</p> <p>田淵 幸一 1946年 東京都出身 前田 祐吉 1930年 高知県出身 石井 連蔵 1932年 茨城県出身</p>
--	--	---	---	--	--	---	---	--	---	---	---	--	--	---	---	--	--	--	--	---	--	--	---	---	---	--	--	--	--	---	---	---	---	--	--	--	--	---	--	---	---	--

野球の歴史

- はアメリカや世界の野球の歴史です。
- 野球のはじまり**
 - 1845(英2) アレキサンダー・カートライトが今日の野球に直接つながる規則を作る。この規則による最初の試合が1846年ニュージャージー州ホボケンで行われる。
 - 1849(英2) ニューボークン・クラブが初めてユニフォームを着用。青と白のユニフォームを着用。
 - 1857(英4) アマチュアチームが集まり野球協会の前身となる「イリノイ」の9チームの規則を決定(そのままだと21点先取)。
 - 1859(英5) 最初の野球協会の(National Association of Baseball Players)誕生。
 - 1863(英3) ベンリー・チャップマンが「ベースボール」を考案。
 - 1865(英5) 南北戦争の後、西部や南部にも野球が広がる。
 - 1869(明2) 最初のプロチーム、シンシナティレッドストッキングズ誕生。
 - 1871(明4) 最初のプロ野球協会(National Association of Professional Baseball Players)が、58年存続。
- 野球伝来から近代野球へ**
 - 1872(明治5) ホーレス・ウィルソンがベースボールを伝える。
 - 1876(明治9) 現在のナショナルリーグが結成される。
 - 1878(明治11) アメリカ留学から帰国した平岡 燕が、わが国初の本格的野球チーム「新橋アスレチック倶楽部」を結成。
 - 1894(明治27) 中馬 茂がベースボールを「野球」と訳す。
 - 1896(明治29) 第一高等学校が横浜外人チームに勝利。野球人気全国的に高まる。
 - 1901(明治34) 現在のアメリカリーグが結成される。
 - 1903(明治36) ナリーグとアリーグの間に協定が成立し、ワールドシリーズが始まる。
 - 早慶戦が始まる。
 - 早大チームが初の米国遠征を行い、最新の野球技術を学んで帰国。
 - 広慶の遠征により、早慶戦が中止となる。
 - 早大が初めて外国チーム(ハワイ・セントルイス)を招待し、国内初の有料試合を行う。
- 夏の甲子園大会が始まる**
 - 1915(大正4) 全国中等学校野球大会(現在の夏の甲子園大会)が始まる。
 - 1918(大正7) 野球 少年が少年野球用軟式ボールを発明。
 - 1919(大正8) ワールドシリーズでシカゴ・ホワイトソックスの選手が買収され、シンシナティスに勝つとされる事件(トラッキング事件)が起る。
 - 1920(大正9) 最初のプロチーム日本運動協会(芝罘協会)が誕生。開成大戦の後、関西へ移り芝罘協会となるが、1929年に解散。
 - 1921(大正10) ケネシー・マウンテン・ランディスが初代コミッショナーに就任し、ブラックソックス事件を解決。
 - 1924(大正13) 全国選抜中等学校野球大会(現在の夏の甲子園大会)が始まる。
 - 甲子園球場完成。
 - 秋より早慶戦が復活。東大の加入により東京六大学リーグが始まる。
 - 明治神宮野球場完成。
 - 都市対抗野球大会が始まる。
 - 夏の甲子園大会が初めてラジオで実況放送される。
 - 1929(昭和4) 大リーグで背番号を採用する球団があらはれ、他チームにも広まる。
 - 早慶戦で天皇杯試合が行われ、東京六大学の全盛時代となる。
 - ルーゲッラが7球の大リーグ選抜チーム来日。
 - 文部省が「野球統制の訓令」を施行。
 - 大リーグのオールスターゲームが始まる。
 - 東京六大学が夏の甲子園大会3連覇を達成。
 - 日本初のナイターが戸塚球場で行われる(早大2軍対早大1軍戦)。
- 日本プロ野球の誕生**
 - 1934(昭和9) ベーブ・ルースが米大リーグ選抜チーム来日。
 - 1936(昭和11) 東京巨人、大阪タイガース、名古屋、東京セネタース、阪急、大東京、名古屋金鯱の7球団により、日本職業野球連盟設立。
 - 1937(昭和12) 西宮、後楽園両球場完成。
 - 1943(昭和18) 戦争激化で学生野球は中止。
 - 1944(昭和19) プロ野球も一時休止となる。
- 戦後の復興、2リーグ制が始まる**
 - 1945(昭和20) 11月18日に神宮で全早大対全慶大を挙げる。プロ野球も11月23日に東西対抗を行う。
 - 1946(昭和21) 学生野球、社会人野球、プロ野球が復活。
 - 1947(昭和22) ジャッキー・ロビンソン、初の黒人リーグ選手となる。
 - 1948(昭和23) 横浜ベイスターズが横浜スタジアムでプロ野球の初ナイターが行われる。
 - 1949(昭和24) サフランソール・シリーズ(3A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして来日。
 - セントラル・パシフィックの2リーグ制が始まる。
 - プロ野球にコミッショナー制度が設けられる。
 - 全日本大学野球選手権大会が始まる。
 - テレビの野球実況放送が始まる。
 - 1959(昭和34) 野球体育博物館(現・野球殿堂博物館)開館。
 - 1962(昭和37) 新学館が、春夏甲子園に初の連続優勝。
 - 1965(昭和40) ヒューストンに初の屋根付球場(アストロドーム)建設される。
 - プロ野球新人選抜会議(ドラフト)が始まる。
 - ア・ナリーグともに12チームが増え、東西6チームずつの地区別となる。
 - 10月10日、金田正一が通算400勝を達成。
 - アリーグが指名打者(DH)制を採用。(1982年まで)
 - 巨人が9年連続日本シリーズ優勝。
 - バリーグが指名打者制を採用。
 - アリーグはさらに2チーム増え、14チームとなる。
 - 9月3日、王 貞治がハンク・アロンの記録を破る通算756本塁打達成。
 - 6月3日、福本 豊がルー・ロックの記録を破る通算939盗塁達成。
 - 10月3日、松本 浩二がワールドシリーズの公認記録で日本代表となる。
 - 1987(昭和62) 10月13日、衣笠祥徳がワールドシリーズの記録を破る2131試合連続出場達成。
 - 1988(昭和63) 日本初の屋根付球場東京ドームが完成し、野球体育博物館ドーム内に移転。
- 野球の国際化**
 - 1992(平成4) バリ・セロオリンピックが野球が正式種目となり、銅メダル獲得。
 - 1993(平成5) ナリーグにフリーエージェント制(FA)が導入される。
 - 1994(平成6) ア・ナリーグともに東、中、西の地区別となる。
 - 1995(平成7) ロサンゼルス・ドジャースの野茂英雄が、ナリーグ新人王となる。
 - 1996(平成8) アトランティックシティで全日本チームは銅メダル獲得。
 - 1997(平成9) ア・ナリーグの交流試合が始まる。
 - 1998(平成10) ナリーグが16チームとなりナリーグ合わせて30チームとなる。
 - 2000(平成12) シドニーオリンピックでプロアマ合同の全日本チームは4位に終わる。
 - 2001(平成13) シアトル・マリナーズ、ナショナル・リーグ新人王・MVPに輝く。
 - 福岡ドーム(1993年)、ナショナル・リーグ新人王・MVPに輝く。
 - 西武ドーム(1999年)に続き、札幌ドーム完成。
 - アテネオリンピックで日本代表は銅メダル獲得。
 - イチロー(2012年)がワールドシリーズの記録を破り、シーズン(262安打)達成。
 - 球団統合問題に端を発し、選手会(史上初のストライク)を行う。
 - セ・パ交流試合が始まる。
 - ア・ナリーグ初開催、日本(千葉ロッテ)で開催。
 - ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で王者を率いる日本代表が優勝。
 - セ・パ両リーグの上位3チームが日本シリーズ出場を争うクライマックスシリーズが始まる。
 - 2008(平成20) 北京オリンピックで日本代表は4位となる。
 - 2009(平成21) 第2回WBCで監督を務める日本代表が通算達成。
 - 松井秀喜(ヤンキース)がワールドシリーズMVPに輝く。
 - 2011(平成23) プロ野球が統一チームを導入。
 - 2013(平成25) オリピック競技種目を指し、世界野球のソフトボール連盟(WBC)設立。
 - ハンク・アロンの日本プロ野球新記録(シーズン60本塁打)達成。
 - 中井将之が開幕カードの通算を24、前年から初の通算を28として、それぞれ日本プロ野球新記録を樹立。
 - 2015(平成27) 谷繁元貞が野村克也の最多試合出場記録を破り、3021試合出場達成。
 - 秋山和彦がマートンの記録を破り、シーズン216安打達成。
 - 2017(平成29) 6月15日、イチローはペー・ロースの記録を破る通算4257安打達成。
 - 2018(平成30) 第4回WBCで待望したベスト4となる。
 - 2019(平成31) 第8回アジア野球ワールドカップで待望した女子代表が6連覇達成。
 - 2019(令和元) WBCSPプレミア12で待望したプロ野球初優勝。

Baseball History ~世界との交流~

■日本にベースボールが伝来

1872年に第一大学第一番中学のアメリカ人教師ホーレス・ウィルソンが生徒にベースボールを伝えた。翌年、開成学校と同名がわり新校舎とともに立派な運動場が整備されると試合が出来た。

日本野球発祥の地
モニュメント
2003年、東京神田の学士会館(開成学校があった場所)に建立された。

■1876年の日米野球

1876年、東京開成学校の生徒と、同校教師等の外国人による試合が行われ、3対11で外人チームが勝利。記録に残る最初の国際試合。ウィルソン3勝11敗で出場。

FOREIGNERS	R.	O.	JAPANESE	R.	O.
Mudgett, 2d b.....	6	3	Ishido, 1st b.....	2	2
F. Lacey, c.....	4	2	Nomoto, l. f.....	2	3
William, l. f.....	2	2	H. Oryama, r. f.....	2	2
Denison, c.....	7	1	Kunshorra, c. f.....	1	4
Churchill, 1st b.....	6	1	Tarukami, r. f.....	1	2
Q. Lacey, 3d b.....	4	2	Ikoyama, 3d b.....	1	2
Hepburn, p. f.....	3	4	Awokic, c.....	1	2
Stevens, r. f.....	3	4	Kimi, p.....	0	1
			Sasaki, 2d b.....	0	0
Totals.....	34	21	Totals.....	11	21
Foreigners.....	5	1	2	12	34
Japanese.....	0	1	6	0	1
Umpire, Mr. Van Buren.					

ニューヨーク・クリッパー紙記事

■一高、横浜外人チームに大差で勝利

1896年5月、一高(第一高等学校)は横浜在住の外人チームとの試合に29対4で勝利。この勝利が新聞で報じられ、野球人気全国的に高まった。

1896年一高チーム
後列中央がベースボールを、野球に立った中馬 茂で、翌年には競技者向けの詳しい専門書を著した。

アメリカでの早大チーム

慶大対ハワイ・セントルイス
入場券
1907年、野球試合を目的に来日した初の海外チームと、招いた慶大が対戦。日本初の有料試合となった。

■日米野球、初勝利

1922年、大リーグ選抜チームを相手に、三田倶楽部(慶大OB)が9-3で日本勢勝利。

1922年日米野球
サインボール

1931.34年の日米野球が大きな人気を集め、現在のプロ野球誕生につながった。

1934年日米野球 両チーム集合写真

■1964年東京オリンピック

1964年10月11日、東京オリンピックの公開競技として野球が開催され、神宮球場にて全日本学生選抜、全日本社会人選抜が全米学生選抜と対戦した。

1934年 日米野球ポスター

日米野球 全日本ユニホーム
(上)1931年 / (下)1934年

■戦後初の日米野球

戦終りから4年、戦後初の日米野球に3Aのサンフランシスコ・ジャズが来日。

1949年日米野球ポスター

1949年日米野球
全日本ユニホーム

■オリンピックと野球

2000年のシドニー大会はプロアマ合同で参加。2004年アテネ大会、北京大会はプロ選手で出場。

1984年 ロサンゼルス五輪 優勝記念写真
1984年、ロス五輪の公開競技として開催。若手社会人と大学生で組んだ日本が決勝でアメリカを破り優勝。1992年バルセロナ五輪より正式種目となる。

1984年 松永隆一監督着用ユニホーム

アテネ大会の予選となった
2003年アジア野球選手権大会
長崎茂雄監督着用ユニホーム

■侍ジャパンの活躍

2006年、新たな世界大会、ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)が開催。王貞治監督率いる日本代表が初の世界一となった。2013年には、プロアマが結集し、すべての世代がひとつの野球日本代表となる「侍ジャパン」が誕生。トップチームを頂点とし、各世代の代表チームが活動している。

2006年 WBC優勝トロフィー

2006年イチロー選手ユニホーム

2020(令和2)年 野球界のおもなスケジュール

3月	第92回選抜野球大会(19日~)
4月	プロ野球開幕(20日~)
6月	第69回全日本大学野球選手権大会(8日~)
7月	プロ野球オールスターゲーム(19.20日) プロ野球中斷(21日~8月13日)
8月	東京2020オリンピック 野球競技(29日~8月8日) U-15 ワールドカップ(14日~ メキシコ)
9月	全日本軟式野球大会(11日~)
9月	女子野球ワールドカップ(11日~ メキシコ)
10月	U-23 ワールドカップ(2日~ メキシコ)
11月	プロ野球日本シリーズ(7日~)
	第91回都市対抗野球大会(22日~)

※青色表記は国際大会